

ライブ毎刊びゃっきープレス

2004

無料配布

あたりまえ

11 月 28 日号

ライブ当日発行

発行 (謝)びゃっきーライブ連盟

<http://www.satram.jp/byacky/>

byacky@satram.jp

配布 びゃっきーご本人かライブハウスの人



役にたたない偏重サイト
情報がグレードダウン!!

アクセス不要
<http://www.satram.jp/>
info@satram.jp

byacky press

びゃっきーピアノノ3段目

満を持して登場

びゃっきーの挑発的行動を見守る第1期びゃっきーライブ4回戦は拾巻月廿八日に行われる。ベールに包まれていたびゃっきー自前のピアノが、ついに公開されることとなった。これで一層ライブに集中できるとびゃっきーは意欲的だが、一方、運搬時に持病の腰痛に襲われる心配があるなど、まだまだ予断を許さない状況だ。



第1期
びゃっきー
ライブ

自宅待機の様子。最下段のいかにも重そうなピアノがそれ。

びゃっきーはライブ当日いつもより早めに出発する。ピアノ運搬用のレンタカーを借りるためである。

少しでも使い慣れたものをと、自前のピアノでライブに望む。その心境の変化は前回のライブまで遡る。前回のライブで、新曲の歌詞がぶつとび、その後尾を引きずるように既存の曲の歌詞まで出てこなくなったのが原因という。予定外の状況に追い込まれたときに少しでも「不安要素」が取り除けたらということらしい。

彼がバンドをやっていた時に、キーボードの運搬で腰をおかしくして以来、機材の運搬は彼の命題の一つとなっている。ライブハウスKAZTOUではピアノをレンタルできるため、前回まではそれを借りて

ライブを行っていた。「音色もボディーの色も、そして鍵盤数すら違うので、何らかの心理的負担があったのではないか」と言い訳じみたことを言ってみる。早い話が気分転換」という本人の談である。

冗談はさて置き、音色の違いは曲の雰囲気にも多大な影響を与える。びゃっきーは「不安要素」を取り除くのが目的だと言っているが、真の狙いは自分の思い描いている「完成図」に少しでも近づけることにあるのではないか。あくまで強気な「攻め」の姿勢がそこにはある。

「精神的に弱い部分があるので、それを少しでもカバーできたらと願っている。でも運搬時の腰の不安を考えるとどっちもどっち。あこのピアノ、年に数回なんだけど、突然

音が出なくなることがあるから、それがライブ中に起こらないようにみなさんも祈っていてほしい」

不安要素を増やしてまで自前のピアノで臨むびゃっきーが「攻め」のライブを見せてくれるのは間違いなさそうである。暖かく見守りたい。(哀戦士)



KAZTOUのピアノは見納めか。